Economic Indicators

発表日:2023 年 12 月 28 日(木)

鉱工業生産(2023 年 11 月)

～先行きは自動車の下振れに注意～

第一生命経済研究所　経済調査部
副主任エコノミスト　大柴　千智　(TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
22年	1月	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 0.9	▲ 1.8	▲ 0.5	5.9	1.3	6.4	1.5	7.7	▲ 1.0	▲ 5.0
	2月	1.3	0.0	0.6	▲ 1.9	1.8	8.6	0.5	8.7	▲ 2.2	1.1	0.5	▲ 3.6
	3月	▲ 0.3	▲ 1.6	0.7	▲ 2.7	▲ 0.4	7.9	▲ 0.1	10.0	0.4	5.9	▲ 0.5	▲ 5.6
	4月	▲ 0.4	▲ 4.7	0.3	▲ 4.6	▲ 3.5	4.4	▲ 1.6	8.0	2.2	▲ 0.6	0.7	▲ 5.6
	5月	▲ 4.4	▲ 2.7	▲ 3.8	▲ 3.3	0.5	4.5	3.4	8.5	0.1	2.2	▲ 1.0	▲ 3.4
	6月	5.0	▲ 3.0	3.2	▲ 3.3	1.5	4.7	▲ 0.7	8.6	2.3	2.6	1.4	▲ 3.2
	7月	0.6	▲ 1.8	0.7	▲ 2.1	0.7	5.1	1.4	10.4	4.5	9.6	1.1	▲ 1.5
	8月	1.4	5.7	0.8	5.5	1.1	6.2	▲ 0.3	4.9	5.8	18.8	▲ 0.5	8.9
	9月	▲ 0.5	8.7	▲ 0.7	9.6	1.7	6.2	2.8	5.0	▲ 5.4	13.4	▲ 0.3	18.0
	10月	▲ 1.7	3.1	▲ 0.6	4.7	▲ 0.2	5.0	▲ 1.5	3.7	▲ 1.7	10.6	1.5	7.2
	11月	0.0	▲ 1.4	▲ 0.4	▲ 0.8	0.0	3.5	1.3	6.6	▲ 3.9	2.5	▲ 0.9	1.9
	12月	▲ 0.6	▲ 2.2	▲ 1.2	▲ 3.1	▲ 0.1	2.7	2.2	10.5	2.7	3.9	0.2	0.0
23年	1月	▲ 3.9	▲ 2.8	▲ 3.2	▲ 2.9	▲ 0.7	2.4	2.0	9.6	▲ 10.6	▲ 5.2	▲ 2.5	1.2
	2月	3.7	▲ 0.6	4.3	0.7	1.0	1.6	▲ 1.6	5.9	7.2	2.2	4.9	4.1
	3月	0.3	▲ 0.8	0.9	0.0	0.4	2.3	1.3	8.8	▲ 1.8	▲ 0.1	0.8	5.5
	4月	0.7	▲ 0.7	▲ 0.2	▲ 1.3	▲ 0.1	6.0	1.8	12.5	1.1	▲ 2.9	0.7	3.9
	5月	▲ 2.2	4.2	▲ 1.1	4.0	1.8	7.3	1.5	8.8	2.6	3.0	1.6	9.9
	6月	2.4	0.0	1.6	0.8	0.2	5.9	▲ 0.8	10.3	▲ 0.6	▲ 1.5	▲ 1.6	5.0
	7月	▲ 1.8	▲ 2.3	▲ 1.8	▲ 1.7	0.6	5.7	1.0	9.8	▲ 4.6	▲ 10.2	▲ 0.6	3.2
	8月	▲ 0.7	▲ 4.4	▲ 0.3	▲ 2.8	▲ 1.3	3.2	▲ 1.0	9.1	1.5	▲ 13.8	▲ 2.1	1.5
	9月	0.5	▲ 4.4	0.6	▲ 2.3	▲ 1.3	0.2	▲ 1.7	4.4	▲ 3.0	▲ 13.1	1.9	2.2
	10月	1.0	0.9	0.2	1.0	0.8	1.2	0.1	4.6	2.6	▲ 6.2	2.6	6.5
	11月	▲ 1.9	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	12月	3.2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

(出所)　経済産業省「鉱工業指数」
(注)23年11月、12月は、製造工業生産予測調査の数値

○12 月の生産は 3 か月ぶりの低下

経済産業省から公表された 23 年 11 月の鉱工業生産は前月比▲0.9%と低下したが、事前の市場予想(前月比▲1.6%)は上回った。3 か月ぶりの低下となったが、前月に前月比＋1.3%と上昇した後であることを踏まえれば、まずまずの結果である。業種別にみると、汎用機械(前月比▲8.1%、前月比寄与度▲0.51%pt)の落ち込みで今月の低下の大半を説明できる。

そのほか、部品等の供給制約の緩和により生産を牽引している輸送機械は前月比▲1.6%の低下となったが、9 月に＋4.2%、10 月に＋2.2%と上昇が続いてきた反動の面が大きいだろう。ただし、今後は輸送機械の増勢は抑制される可能性が高い。23 年入り後から続いてきた急速な挽回生産の一巡に加えて、12 月以降は一部自動車メーカーの生産停止の影響で、目先は大きく下振れると考えられる。同時に公表された予測指数では、輸送機械は 12 月に前月比＋5.5%、24 年 1 月に同▲7.8%と見込まれているものの、ここには自動車メーカーの生産停止の影響が織り込まれていない点に注意が必要だ。

一方、電子部品・デバイスは、グローバルな IT 需要の調整を受け 22 年から低下が続いてきたが、足元で底打ちがみられるようになってきた。11 月は前月比▲0.9%となったものの、10 月に前月比＋

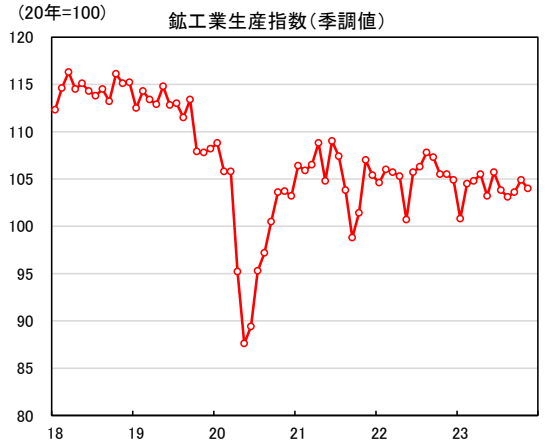
6.6%もの大幅上昇した後にもかかわらず微減にとどまった。在庫水準も低下傾向が明確化しており、在庫調整は概ね終了したとみられる。電子部品・デバイスの予測指数は12月が前月比＋4.3%、24年1月が同▲6.9%と一進一退だが、このところの予測修正率はプラスが続いていることを踏まえれば（12月予測修正率：＋1.8%）、予測を上振れる可能性もあるだろう。IT部門が持ち直し傾向に転じれば、先行きの生産の下支え要因として期待される。

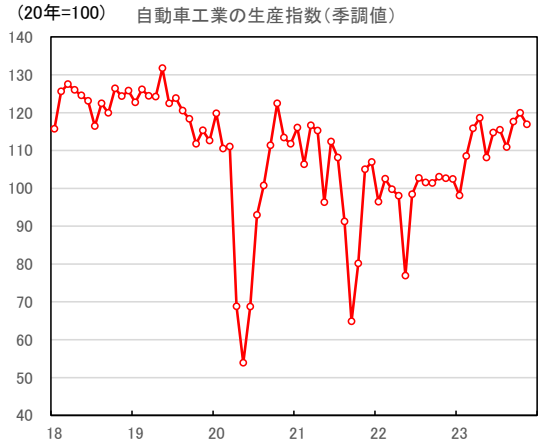
○先行きは自動車の下振れに注意

同時に公表された製造工業予測指数は、12月が前月比＋6.0%、24年1月が同▲7.2%となった。ただし、予測指数には上振れバイアスがあり、このバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値では、12月は同＋3.2%の上昇が見込まれることとなる。

仮に12月が経産省試算値通りとして先延ばしすると、10-12月期は前期比＋1.7%の増産となることが見込まれる。もっとも、前述の通りここには自動車メーカーの生産停止の影響が含まれていないことに注意が必要である。実際の12月は生産計画から下振れることを考慮すれば、10-12月期は前期比＋1%程度に留まるものとみられ、7-9月期（前期比▲1.2%）の落ち込みから一進一退の動きとなり、停滞感は強い状況が続くだろう。

先行きについて、上述の通り電子部品・デバイスの持ち直しへ転化が期待されるものの、自動車の増勢鈍化や、海外製造業部門の景況感悪化や中国経済の低迷が続いていることで輸出は低迷していることから、生産への下押し圧力も当面続くとみられる。国内の財消費も伸び悩む中で、24年入り後も鉱工業生産の停滞は続く可能性が高いだろう。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。